

令和元年度 生石保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

- 松山市内の 0.1.2 歳児の待機が減少していることから、0.1.2 歳児の家庭から選ばれるために、園の情報をホームページで紹介するとともに、地域の子育て家庭を招いて保育体験会を開催しました。また、保育園のパンフレットを近隣の施設（公民館、銀行、スーパーなど）に設置し、園の紹介をしていきました。
- 勤務体系の見直しは、年度当初保育士の確保はできていましたが、年度途中で正規職員 1 名が離職し、保育の業務量が増えた時期もありました。しかし、年度途中で、保育士確保ができ、業務量や役付けの負担を軽減することができました。業務の効率化に向けては、ICT システムを活用していくために計画の取り込み作業を依頼するなどの準備を進めました。在職中の保育士の質の向上を目指し、現場において指導を行っていきましたが、一日の保育の流れが十分に活用されていないことから見直しが必要となります。
- 保育のドキュメンテーションやおたよりを活用し、保護者に子どもの興味関心、成長を発信していきました。自らの保育を振り返り改善につなげていく流れには課題が見られるため、話し合いの機会を設けていきました。

②定 員 90名、定数外 17名→合計107名

③事業日数 293日（うち休日保育 73日実施）

④開園時間

平 日	7:00	～	20:00
土曜日	7:00	～	20:00
休 日	8:00	～	18:00

⑤保育時間 早朝保育 7:00～ 8:30
8:30～16:30【短時間認定】
延長保育 18:00～20:00

⑥職員数

園長 1名、主任保育士1名、保育士20名（うちパート保育士11名）
調理員 5名（パート調理員 4名）パート用務員 1名（障がい者雇用）
嘱託医（内科・歯科）各1名（年各2回健診）

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力(記憶、計算、判断、決定、言語理解など)と非認知能力(意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感)を育む。

④クラス体制

0歳児	もも組	3名	保育士	1名
1歳児	もも組	12名	保育士	2名
2歳児	ぶどう組	22名	保育士	4名
3歳児	みかん組	23名	保育士	2名
4歳児	りんご組	24名	保育士	2名
5歳児	めろん組	24名	保育士	1名
<hr/>				
合計園児数		108名	保育士	12名
主任保育士			1名	
子育て支援担当保育士			1名	(パートタイム保育士)
延長・休日保育担当保育士			4名	(パートタイム保育士)
フリー保育士			1名	
障がい児加配			1名	(パートタイム保育士)

⑤保育内容

- 乳児クラスは、ゆるやかな担当制で保育を行い、じゃれつき遊びなどを通して子どもたちとの愛着関係を築くようにしていきました。また、運動の内容を見直し、乳児クラスも積極的に運動遊びを楽しむようにしました。しかし、じゃれつき遊びや運動遊びも職員によって差異が生じワンパターンとなり子どもたちが楽しんで参加するという部分では見直しも必要となります。
- 幼児クラスでは、子どもたちが遊び込めるようにコーナーの人数や遊びの内容を見直し、必要な玩具を揃えるなど充実を図りました。戸外では、ルールのある遊びを取り入れ、子どもたちの興味が持続するように同じ遊びでもルールを工夫して取り組みました。グループ保育を行い、落ち着いて生活ができるように努めましたが、子どもが一齐に移動したり園内のルールが守られていなかったりする場面が見られたため、一日の保育の流れを見直していく必

要があります。

- 全体的な計画に基づいて年間計画を見直しました。カリキュラムについての話し合い(園長・主任・クラス担任)を毎月行い、今月の保育や子どもの姿の振り返りを行い、来月の取り組みや課題について話し合いをしました。
- 石井式漢字では、幼児クラスの職員に基本を伝えたり、ロールプレイングをしたりしていきました。また、講師を招いて研修会を行い、基本的な指導法を学び、職員によって指導の方法に差異が生じないように取り組みました。子どもたちが漢字と言葉が結びつくように実際に物を見せたり作ったりすることで意欲をもって取り組めるようにしました。
- 朝の意味ある運動でしっかりと体を動かし、前日の脳内のストレスを発散することで、落ち着いて日々の活動に取り組んでいます。子どもたちが惰性で運動を行っていないかなど確認し、内容の検討を幼児クラスの職員同士で話し合い、充実した運動にするように取り組みました。また、安田式運動遊具を使用することで、子どもたちは意欲的に取り組んでいるものの、大人の子どものつながりについては課題があり、職員は安田式運動遊具を使用している基本的な部分を学び直す必要があります。
- 音楽あそびでは、週一回講師を招いて取り組みました。各クラスが年齢に応じて楽曲の選定をし、子どもの様子に合わせて課題設定をしたため、子どもたち一人ひとりが達成感を味わう機会となりました。
- 様々な調理器具を使いながらクッキングを行いました。野菜の栽培では、夏にはきゅうり、ピーマン、スイカ、ナス、トマト、秋にはさつまいも、冬には人参、大根、ブロッコリーなど四季折々野菜を育てて収穫し、給食で提供することで食材に関心が持てました。

⑥家庭との連携

- クラス懇談会(年2回)・個人懇談会(年1回)・就学前個人懇談会(年1回)保育参加(年1回)家庭訪問(新入園児のみ)保育園で行う教育と保育について伝えていきました。
- 保護者への情報発信の手段とし、保育のドキュメンテーションやおたより、連絡ノートで子どもの育ちや成長を伝えました。また、クラス懇談会の場で日々の子どもの生活の様子など映像を通して説明しながら、活動内容の理解に努め、家庭と協力して保育を進めていきました。
- 生活習慣の基本となる「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを園便りやクラス懇談会で家庭に伝え、個別懇談などで家庭での生活リズムを保護者から聞き取り、家庭と連携しながら子どもの生活習慣の改善に繋げていきます。また、アンケートで実態を把握し、子どもたちに望ましい生活リズムが定着してきているかを確認していきました。
- 平成31年度入所の新入園児を対象に入園前のプレ保育を行い、園の保育について伝えました。また、家庭訪問を実施し、子どもの様子を事前に把握するなど、安心してスムーズな入園につなげました。令和2年度入所の新入園児を対象にした年度末のプレ保育は感染症予防対策から中止とし、丁寧にアセスメントを行うようにしました。
- 転園や卒園児とその保護者には、園長、主任が相談窓口となり、継続して支援できるようにしました。また、卒園児を対象に年3回の交流会を実施しています。

⑦人材育成

- 新規職員や経験の浅い職員には一日の保育の流れを基に、方法や意味合いを知らせ、現場において確認をしていきましたが、定着するまでには今後も取り組んでいく必要があります。
- 中堅となる職員をリーダーとして起用し、責任を持ち業務に取り組めるようにしました。経験のある職員が側でサポートをしながら業務をスムーズに行えるように取り組みました。職員同士が積極的にコミュニケーションをとりながら、保育現場での課題や不具合等を解消することに努めました。
- 職員とともにカリキュラムの内容をクラス担任と園長・主任が月 1 回話し合いの場を設け評価反省をし、課題や保育内容について共通の認識を持ち保育を実践していきました。
- 保育の質の向上に向けた研修や個別研修計画に基づき、中堅職員にはキャリアアップのため園外の研修を受講しました。また、園内でも（救命救急、アレルギー対応、感染症対応、不審者訓練、石井式漢字教育、子どもの遊び）などの園内研修を行い、必要な知識や技術が修得出来るようにし、専門性の向上につなげていきました。
- 講師による研修（体育あそび・音楽あそび・絵画・造形）を受講し、職員自身が必要な知識の習得をし、日々の保育の質の向上を図りました。

⑧地域の実態に対応した事業

●子育て支援について

子育て支援の活動は0歳児「赤ちゃん広場」と1・2歳児「さくらんぼ広場」の日を分けて、各年齢に応じた活動内容を行うよう見直し、参加しやすいようにしていきました。

また、育児講座として0歳児の子育て家庭対象のベビーマッサージ年2回（6月・1月）、ベビーフォト、給食試食会、運動遊びを（6月・9月・12月）開催し、地域子育て支援に取り組みました。

子育て支援利用者は延368名で、入園につながった人数は1歳児4人2歳児1名でした。

●小学校との連携・接続について

安心して就学を迎えられるように、学校行事への参加や園児と小学1年生との交流活動に参加するなど、年長児が小学校生活に期待をよせ、見通しを持つことができるよう連携を図りました。

- 近隣の小学校で授業参観や、年2回（6月・2月）の幼保小連絡協議会に参加し、情報交換を行いました。その中で、保育園の取り組みを伝えるなど、連携を図り円滑な接続ができるよう取り組んでいきました。また、特別な支援のいる子どもに対しては、教育委員会の専門職員（年2回）に巡回指導を依頼し、助言を得ることにより、子どもの発達や障がいなどに関する理解や集団での配慮事項を学んでいきました。

- 「生石地区の町づくり協議会」（構成メンバー：保育園、民生委員・学校・支所・公民館・PTA・おやじの会・老人会・青年部会・幼稚園など）に参加し、保育園の機能と役割、必要性等を伝えました。子育て支援活動のパンフレットをまちづくり通信に掲載して頂きました。

- 地域の高齢者との交流を継続して行いました。（こどもの日交流会、敬老交流会、運動会、生石地区文化祭参加、高齢者施設交流会）2月末以降の交流行事は、新型コロナウイルス感染予防のため中止となりました。

- 地元にある自然や社会を知る機会を大切に、地域の方とも交流を深めながら社会体験活動を実施しました。（垣生山登山、空港フェスタ参加、みかん農園見学、公民館清掃など）

⑨苦情処理

- 意見や要望に対しては、全職員に速やかに周知し、概ね24時間以内に保護者に改善内容を伝え、個別に対応したり回答書の掲示をしたりしました。また、解決に時間のかかる場合は途中経過を伝えるなど対応しました。

⑩リスクマネジメント

- 子どものアレルギーの状態に応じ、個別的な配慮をするなどの対応をしました。食物アレルギーは主治医意見書を基に、園での食事の提供の具体的な取り組みについて事前に保護者と協議を行い適切に対応しました。また、食事の提供については毎日の特別食実施表を確認した上で、マニュアルに従って給食を提供しました。
- 安全係を中心に危機管理マニュアルの見直しを3月に行い、園内研修で全職員に周知しました。また、災害に備え備蓄品（食糧、医薬品、毛布、乾電池）の点検については、リストに沿って、調理員が（11月）に行いました。アレルギー児に対応できる食品も備蓄しています。避難リュックの確認は毎月避難訓練実施日に各クラスの担任が行います。
- 災害に備え、様々な想定（地震、火災、風水害等）での訓練を実施しました。消防署と連携した総合避難訓練を11月に実施し、避難行動についてのアドバイスを頂きました。避難情報に応じて松山市と連携を図り、台風などの正確な情報を収集し、迅速に伝え、子どもや保護者の安全を守りました。風水害時の避難行動の対応を保護者に再度啓発しました。防災行政無線受信システムの点検年1回実施（7月）
- 災害時の避難場所は玄関掲示板に掲示をしています。なお、連絡方法や対策については、新規面接時や5月のクラス懇談会において文書で保護者に伝えました。
- 松山市のMAC ネットシステム（情報配信システム）を利用し、災害時や危機管理、感染症等子どもの安全に係る事項について迅速な情報発信を行いました。
- 保健衛生マニュアルや感染症マニュアルの見直しは、年1回（3月）見直しを行いました。感染症の流行する前に嘔吐処理研修を行うなど感染症予防に努めました。
- 毎日の安全点検と毎月1回、松山市のチェックリストに基づき危険個所を月末に点検し、安全な環境を整えました。また、松山市の施設点検マニュアルに基づく施設点検を年4回行いました。業者による遊具点検は年1回実施し、異常ありませんでした。散歩コースの危険箇所点検（5月）を行いました。
- ヒヤリ・ハットの内容は昼礼や職員会にて情報の共有をし、事故防止に努めました。
- 新型コロナウイルス感染症拡大予防については、本部からいただいた情報をもとに、自園でも検温や問診票の活用、保育の方法の見直し、施設の衛生管理・消毒などの感染予防対策に努めました。

⑪休日保育

- 日曜、祝日の利用登録数19名（他園からの利用者4名）年間延利用人数は430名でした。
安全・安心を心がけ、子どもたちがくつろげる環境の中で過ごせるように保育を行いました。